財団法人　愛知県埋蔵文化財センター

年報

平成
4年度

1993

㈶愛知県埋蔵文化財センター

序

平成４年度の日本経済は、バブルの崩壊に伴う複合不況によって低迷しており、埋蔵文化財の調査に関する状況もこうした社会の変化とは無縁ではなく、この影響を少なからず受けております。埋蔵文化財の発掘調査と保護の啓蒙普及活動を本務としている当財団も８年目を迎え、発掘調査は県内全域に及んでいます。また、調査報告書の刊行も年間に10冊前後を数えるようになり、普及啓蒙活動も様々な形で求められるようになりました。このように設立当初とは異なった状況に置かれた当財団は、様々な問題を内包しつつも、新たな転機を迎えようとしております。

今年度もこれらの調査や普及活動の記録を「年報　平成４年度」として公表することとなりました。本書が考古学の研究はもとより、埋蔵文化財の保護と活用の上でも、お役に立つことができれば誠に幸いと存じます。

本書の刊行及び発掘調査にあたっては、理事・専門委員の諸先生方及び愛知県教育委員会のご指導を賜わるとともに、建設省・日本道路公団・愛知県土木部・総務部・企業庁・道路公社・地元各市町村その他の関係者の方々から多大なご協力をいただきました。厚く御礼を申し上げます。

平成５年３月

財団法人　愛知県埋蔵文化財センター

理事長　高木　鐘三

例　言

1．本書は、財団法人愛知県埋蔵文化財センターの平成4年度事業の概要をまとめたものである。

2．調査は、建設省中部地方建設局、日本道路公団名古屋建設局、愛知県土木部・総務部・企業庁・道路公社から、愛知県教育委員会を通じた委託を受けて、本センターが実施した。

3．調査の概要は、各遺跡ごとにまとめたものである。

4．普及活動の概要は、本センターの事業のうち、研修会・埋蔵文化財展などの埋蔵文化財の発掘調査以外の事業についてその概要を掲載した。

5．発掘調査に当たっては、理事・専門委員の各氏及び愛知県教育委員会文化財課、愛知県埋蔵文化財調査センターの指導助言をいただいた。

6．本書の作成に当たっては、阿部小百合、伊藤慶子、岡裕子、岡田智子、河合明美、五藤そのみ、坪井知江子、中垣内薫、古橋佳子、北條真木、前田弘子、八木佳素実各氏の協力を得たほか、関係各機関並びに、地元作業員の方々には多大な援助を賜った。

7．調査区の座標は、国土座標第Ⅶ座標系に準拠する。

8．各調査区の名称はローマ字で表し、昭和63年度までは前にその年の年号による年度を、平成元年度以降は西暦による年度の下2桁を冠した。そのため平成4年度は93〇区となる。

9．文責は各文末に記した。

財団法人　愛知県埋蔵文化財センターの組織

役　員

理事長

高木　鐘三

常務理事

鈴木　正明

理　事

野村　光宏	愛知県教育委員会教育長
井関弘太郎	中部大学教授
伊藤　秋男	南山大学教授
大参　義一	愛知学院大学教授
坪井　清足	㈶大阪文化財センター理事長
楯崎　彰一	名古屋学院大学教授
山本　　勝	都市教育長協議会会長(半田市教育長)
佐々　信雄	町村教育長協議会会長(大口町教育長)
蛇川　雄司	愛知県土木部長
倉知　昌視	愛知県教育委員会社会教育部長
武田　　晋	愛知県清洲貝殻山貝塚資料館館長(清洲町長)
亀井　誠治	愛知県陶磁資料館館長

監　事

滝澤　尋文	
原田　宗雄	愛知県出納事務局次長

専門委員

考古学	楯崎　彰一	名古屋学院大学教授
文献史学	早川　庄八	名古屋大学教授
地理学	海津　正倫	名古屋大学助教授
建築史学	小寺　武久	名古屋大学教授
動・植物・考古学	渡辺　　誠	名古屋大学教授
形質人類学	池田　次郎	九州国際大学教授
保存科学	沢田　正昭	奈良国立文化財研究所遺物処理研究室室長
岩石学	諏訪　兼位	日本福祉大学教授
木材組織学	木方　洋二	名古屋大学教授

職　員

事務局長兼管理課長　豊田　次男

管理課

主　査	谷　　隆盛		
主　事	伊藤　秀城	後藤　捨成	
	伊藤　博樹	伊藤　晴美	

調査課

課　長	加藤　安信		
課長補佐兼主査	大橋　正明		
	城ヶ谷和広		
主　査	野本　欽也	太田　芳巳	
	都築　暢也	鷲見　　豊	
調査研究員	遠藤　才文	大竹　正吾	
	小澤　一弘	松原　隆治	
	赤塚　次郎	松田　　訓	
	石黒　立人	宮腰　健司	
	杉浦　　茂	酒井　俊彦	
	池本　正明	余合　昭彦	
	服部　信博	川井　啓介	
	小嶋　廣也	服部　俊之	
	鈴木　正貴	蟹江　吉弘	
	樋上　　昇	楯　真美子	
	鬼頭　　剛		

目　　次

Ⅰ．平成４年度事業の概要……1
Ⅱ．遺跡調査の概要……9
　調査の理由と工程……10
　遺跡の位置……12
　貴生町遺跡……14
　月縄手遺跡……16
　西上免遺跡……20
　田所遺跡……22
　東海北陸自動車道試掘調査……32
　下水道浄化センター試掘調査……34
　伊保遺跡……35
　清洲城下町遺跡……36
　外町遺跡……42
　立楠古窯跡……46
　牛ノ松遺跡……48
　子持古窯跡……58
　黒笹40・89号窯跡……62
　坂口遺跡……66
　島田陣屋遺跡……68
　吉田城遺跡……72
Ⅲ．調査研究……77
　居館と囲郭集落のあいだ……石黒立人……78
　古代の尾張をめぐる若干の問題……服部信博……89
　尾張猿投窯と尾北窯……城ヶ谷和広……97
　三河地域出土の土師器皿について……川井啓介……111
　濃尾平野における歴史時代の地震痕……服部俊之……126
　弥生時代後期の竪穴住居覆土のプラントオパール分析…石黒立人・都築暢也・服部俊之……137
　自然科学データの活用その１－花粉分析と樹種同定－…楯真美子・中垣内薫・服部俊之……141
Ⅳ．埋蔵文化財センターの活動……155
　埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会……156
　発掘調査技術等研修会……157
　現地説明会……157
　資料の貸出・提供……158
　検討会……160
Ⅴ．付篇（受贈図書目録）……161